






## ACPのギモン



|   |   |
|---|---|
| Q | まだまだ元気。病気もしていない。最期のことはまだ考える必要はないと思う。  |
| A | 「もしもの時」は思いがけないタイミングで誰にでも訪れるものです。年齢や健康状態に関係なく、早めに始めるに越したことはありません。反対に、考えていなかったときに後悔するかもしれません。 |

|   |  |
|---|--|
| Q | 家族はいない。独り身だけど、どうすればいいでしょうか。  |
| A | 大切な人、信頼している人は家族とは限りません。友人や親戚、ご近所さんかもしれません。ケアマネジャーや施設で関わっている人、場合によっては相談に乗ってもらった市役所の職員の可能性も。家族で話し合うのと同様、事前にそれらの人に気持ちを伝え、記録に残しておきましょう。冷蔵庫に入れておく「救急あんしん君」の中に記録を入れておくこともひとつの意思表示になるかもしれません。<br><br> |

|   |  |
|---|--|
| Q | 親からACPIについて相談されたけれど、どうすればいいかわからない。   |
| A | ぜひ、思いを聞いてあげてください。ご本人の気持ちを尊重しつつ、あなたの気持ちも伝えましょう。不安なことは、他の人(かかりつけ医や看護師など)に相談しましょう。時間があれば準備できることもたくさんあります。大切な人の気持ちを聞くことで、あなた自身がどう生きていくかの指針にもなるはずです。<br> |

※掲載したQ&Aは一例です。その他のギモンについては市民病院ホームページをご覧ください。

津島市民病院 ACP 

|   |   |
|---|---|
| Q | 認知症を持つ人にも有効でしょうか。   |
| A | できれば、認知症を持つ前から話し合っておくことが理想です。そうすれば、認知症を持つことになった後は、周りの人がこれまでの話し合いの状況から推測し、本人にとって最善となるよう推定意思を尊重します。すでに認知症を持っている方については、認知症の度合いにもよりますが、どういう人生を送ってきたのか、好きなことは何かなど、答えやすい質問から身近な人が話を聞くことが大切です。 |

|   |   |
|---|---|
| Q | 受けている医療、今後受けることになるかもしれない医療行為、内容について、素人だから詳しいことはわからない。そこは医師に任せればいいですよね。  |
| A | 医療行為についても、本人の同意が必要です。本人の同意が得られない状況の場合は、周りの人をお願いすることになります。その際に必要となるのはやはり事前のACPです。現在何らかの病気にかかっている場合は、今後必要になる可能性のある医療処置や内容について、医師はしっかり説明する責任があります。少しでも疑問があれば、医師や医療関係者に相談してください。共同意思決定(SDM)といって、治療や検査に関するメリット・デメリットを理解した上で、納得して医療を受けられるように、医療者と患者さんがお互いの情報を共有して患者さんの意思決定のサポートを行っています。 |

### 【アンケート実施中】

市民病院ホームページでは「ACP」に関するアンケートを実施中です(2月28日まで)。詳しくはホームページをご確認ください。皆様のご協力をお願いします。



Twitter、Instagramで市民病院の様子を発信しています。フォロー、いいね♥お待ちしております。